

# 防衛

# 北海道

Bouei Hokkaido  
October 2015  
Hokkaido  
Defense Bureau  
Ministry of Defense

Vol.42



F-15 戦闘機



KC-767 空中給油機



レッド・フラッグ・アラスカ（日米共同訓練）に  
出発する航空自衛隊機及び隊員

写真提供：第2航空団広報

編集・発行 防衛省北海道防衛局 広報誌等編集委員会  
札幌市中央区大通西12丁目 札幌第3合同庁舎  
Tel.011-272-7579  
<http://www.mod.go.jp/rdb/hokkaido/>



## 第7回 日・ASEAN諸国防衛当局 次官級会合が札幌市で開催されました

平成27年9月7日（月）、札幌市において、「第7回 日・ASEAN諸国防衛当局次官級会合」が開催され、ブルネイ・ダルサラーム、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム及びASEAN事務局の次官クラス等が参加しました。

開催に先立ち、9月6日、ラヒム・マレーシア国防次官がヒシャムディン・マレーシア国防大臣の代理として基調講演を行い、安全保障分野におけるASEANの取組の現状及び今後について述べるとともに、地域の平和と安定のために日本がASEANと共に更なる役割を果たすことについて期待が示されました。

同じく平成27年9月6日（日）、左藤章防衛副大臣は歓迎挨拶の中で、参加者の訪日を歓迎するとともに、我が国は、どの国も自国の平和と安全を一国では維持することができないとの認識の下、安全保障分野におけるASEANとの協力を一層強化していく旨述べました。

会合では、徳地秀士防衛審議官が議長を務め、「海と空における共通のルール及び法規を普及するために」、「海と空の安全保障を促進するために」及び「災害対処能力を向上するために」の議題の下、本年5月シンガポールにて行われたアジア安全保障会議（シャングリラ会合）において中谷元防衛大臣が提唱した「シャングリラ・ダイアログ・イニシアティブ」について、出席者の間で意見交換を行いました。

「海と空における共通のルールと法規を普及するために」では、地域ひいては世界の繁栄を支える地域の海洋秩序を維持・促進するルールや法規の重要性について再確認するとともに、国際的なルールや法規の普及のための具体的な方策について意見を交換しました。

「海と空の安全保障を促進するために」では、新しいアセットの導入や新たな運用国の登場により、地域の海と空における活動量が増加している現状を踏まえ、海と空の安全保障を促進するための方策について、また、「災害対処能力を向上のために」では、各国や多国間枠組みにおける災害対処能力を向上するための取組に関し情報共有するとともに、地域の能力を向上するための方策について意見を交換しました。

意見交換を通じ、中谷大臣が提唱した「シャングリラ・ダイアログ・イニシアティブ」が地域協力を促進するのに有益な方針であるとの認識で一致し、今後、多国間や二国間など様々な場で関連する取組を継続していくことを確認しました。



歓迎挨拶を行った左藤章防衛副大臣



議長を務めた徳地秀士防衛審議官



9月6日ラヒム・マレーシア国防次官の基調講演の後の記念撮影  
(前列右から8番目 左藤防衛副大臣、後列右から2番目 徳地防衛審議官、後列右端 杉田北海道防衛局長)



# 地方公共団体等に防衛白書を説明

平成27年版防衛白書は、「わが国を取り巻く安全保障環境」、「わが国の安全保障・防衛政策と日米同盟」、「国民の生命・財産と領土・領海・領空を守り抜くための取組」について分かりやすく解説しており、昭和45年の創刊以来、41回目の刊行となります。

北海道防衛局は例年、陸・海・空自衛隊及び自衛隊地方協力本部と連携し、道内地方公共団体（道及び市町村計195団体）や関係団体などに対し、防衛白書の紹介及び概要の説明を行っています。

この防衛白書の説明は、わが国の防衛政策や防衛省・自衛隊の各種施策について、より多くの国民の皆様にご理解を深めていただくとともに、防衛省・自衛隊と地方公共団体等との連携強化を図ることを目的としています。

防衛白書は一般の書店で販売されているほか、防衛省・自衛隊のウェブサイトでも閲覧できます。当局としては、1人でも多くの方々に防衛白書に目を通していただけることを願っております。



防衛白書 2015  
日本の防衛



杉田北海道防衛局長による防衛白書説明（左：秋元札幌市長、右：水沼別海町長）

平成27年版防衛白書（防衛省・自衛隊ウェブサイト）

[http://www.mod.go.jp/j/publication/wp/wp2015/w2015\\_00.html](http://www.mod.go.jp/j/publication/wp/wp2015/w2015_00.html)

## 第32回防衛問題セミナーの御案内

北海道防衛局では、わが国の防衛に関する諸施策などについて、多くの方々にご理解を深めていただくことを目的に、防衛問題セミナーを開催いたします。

事前申込の必要はなく、**入場無料**でご参加いただけます。

**開催日** 平成27年10月24日（土） 開場14：30 開演15：00

**会場** 稚内総合文化センター 小ホール（定員約100名）

**テーマ** 最北の守りと自衛隊

**講演者** ①防衛研究所地域研究部

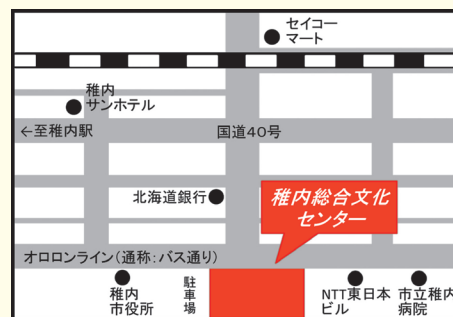
兵頭慎治 部長（予定）

②航空自衛隊稚内分屯基地司令

藤原弘常 1等空佐（予定）

※ テーマ・講師は変更になる場合があります。

主催：北海道防衛局 後援：稚内市



### お問合せ先

北海道防衛局 企画部 地方調整課 地方協力確保室

札幌市中央区大通西12丁目 札幌第3合同庁舎 TEL 011-272-7571

詳細が決定次第、北海道防衛局ホームページに掲載します。

<http://www.mod.go.jp/rdb/hokkaido/oshirase/boueiseminar/boueiseminar.htm>



## 北海道防衛施設地方審議会開催



石崎会長の御挨拶



杉田局長の挨拶

平成27年7月30日（木）、北海道防衛局において、平成27年度北海道防衛施設地方審議会が開催されました。

同審議会は、北海道防衛局長からの諮問に依りて、自衛隊施設等に係る不動産等の取得の額、取得に伴う移転料の額、漁船の操業制限等により被った損失の補償額等に関する事項を調査審議し、必要と認める事項を同局長に建議する機関として、7名の学識経験者による委員で構成され、北海道防衛局に置かれています。

当日は、石崎 同審議会会長をはじめ6名の委員が出席されるとともに、北海道防衛局からは杉田 局長、石尾 次長及び総務、調達、管理各部長並びに防衛補佐官、統括調整官の出席に加え、幹事及び事務局の担当職員が同席しました。

審議会では、出席者の紹介、会長御挨拶、局長挨拶に続き、北海道防衛局の業務紹介が行われ、幹事の施設取得課長より、平成26年度に実施した防衛施設の用地取得事案について、業務の概要、不動産鑑定及び用地買収、建物等の移転補償等の説明が行われました。

また、委員の方々に防衛行政に対する御認識と御理解を深めていただくため、千歳市内に所在する「防衛省技術研

究本部札幌試験場」を訪れ、試験場長表敬、試験場の概況説明の後、装備品の研究開発に必要な試験施設の視察が行われました。

各委員は、航空機のエンジン性能に関する試験を行う「エンジン高空性能試験装置」、空力性能に関する試験を行う「三音速風洞装置」を視察の後、国内唯一の施設である、戦闘車両の機動性を評価するための延長約4.3kmの「車両定地試験施設」を実際に走行し、登坂路、斜面横行路等を視察しました。

これらは国内最高レベルの試験ができる施設であることから、各委員は大変興味深く担当者の説明に耳を傾けるとともに、装備品の研究開発がどのように行われているのか熱心に質問を行なうなど、強い関心を持たれ、防衛行政に対するより一層の知見を広めていただく良い機会となりました。



三音速風洞装置の説明



登坂路の頂上にて





# より優れた品質の防衛施設取得に向けて ～優秀工事等に顕彰状贈呈～



平成27年7月1日（水）、北海道防衛局及び帯広防衛支局において、優秀工事等の顕彰状贈呈式を実施しました。

本顕彰制度は、北海道防衛局及び帯広防衛支局が発注した建設工事等に関し、平成26年度に完成した建設工事及び監理業務の中から、工事等の目的物の出来形または品質が優れていて、他の模範とするにふさわしいものを優秀工事等として選定し顕彰するものです。

北海道防衛局では、①発注者のニーズを的確に反映したもの②新技術を取り入れ品質向上に寄与したもの③労働者不足、冬季施工、多くの工事が輻輳するなど困難な条件下にもかかわらず工程管理等が優れたものなど計6件の工事と優れた技術力を兼ね備えた監理技術者2名を選定。また、工事が円滑に進捗するよう総合的に調整を行うなど熱意を持って業務を履行した2社と管理技術者2名に伊藤義光調達部長から顕彰状を贈呈しました。また、帯広防衛支局では、①部隊運用中の困難な条件下にもかかわらず工程・安全管理等が優れたもの②新技術を取り入れ品質向上に寄与したもの③地域に根ざし信頼が置かれ、良好な施工を行ったものなど計2件の工事の受注者に大井敏光帯広防衛支局長から顕彰状を贈呈しました。

北海道防衛局及び帯広防衛支局は、今後とも受注者の方々が豊富な経験や技術力を遺憾なく発揮され、工事目的物の品質向上などに寄与して頂けるよう優秀工事等の顕彰を進めてまいります。



北海道防衛局 優秀工事等顕彰状受賞者



帯広防衛支局 優秀工事等顕彰状受賞者

## 顕彰状被贈呈者（敬称略）

### 北海道防衛局

対象工事	受賞者
真駒内(23)札幌病院新設建築その他工事	真駒内(23)札幌病院新設建築その他工事 鹿島建設・鉄建建設・宮坂建設工業 建設共同企業体 監理技術者：織田正美
真駒内(25)札幌病院隊舎等新設建築工事	株式会社泰進建設
真駒内(24)札幌病院新設土木工事	東急建設株式会社札幌支店
東千歳外(25)隊舎新設等土木工事	株式会社村上組 監理技術者：中上貴雄
真駒内(24)札幌病院新設機械工事	真駒内(24)札幌病院新設機械工事 ダイダン・朝日工業社・池田煖房工業 建設共同企業体
倶知安(24)給水施設新設電気その他工事	北盛電設株式会社
対象業務	受賞者
真駒内(23)札幌病院建築工事等監理業務	株式会社石本建築事務所札幌支所 管理技術者：穂刈玄一
真駒内(24)札幌病院土木工事監理業務	株式会社富士建設コンサル 管理技術者：川村 恒

### 帯広防衛支局

対象工事	受賞者
美幌(25補)通信施設改修設備工事	エスケー電気株式会社
帯広(23震災関連)隊庁舎新設等電気その他工事	株式会社北口電器商会

詳細につきましては、当局ホームページで公表しておりますので御覧下さい。

※北海道防衛局ホームページ 『入札・契約情報 優秀工事等の紹介』 <http://www.mod.go.jp/rdb/hokkaido/>

# 防衛施設と周辺地域との調和を図るために

## ～障害防止事業の紹介～

今号では障害防止事業について御紹介します。

当局では、これまで障害防止事業として、「防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律」第3条第1項の規定に基づき、「洪水対策」、「土砂流出対策」、「用水対策」等の助成を行ってきています。

(詳細については、特別編集号「防衛北海道(平成26年3月発行)」に掲載しています。是非御覧下さい。)

本稿では、土砂流出対策の一環である矢臼別演習場の「土砂生産源対策」について御紹介します。

陸上自衛隊矢臼別演習場は、我が国最大の演習場で、別海町、厚岸町、浜中町の3町にまたがり、その広さは約168平方キロにもなります。年間の使用日数は平均300日以上と頻繁に使用され、演習場内は荒廃化が進み、降雨時等に演習場内からの流出土砂により下流河川の河床上昇をもたらして洪水・氾濫の原因となるとともに、サケ・マス等魚類の生殖環境に悪影響を与えることが予想されることから、演習場内からの流出土砂を最小限とし、河川の環境保全、漁業資源への障害の防止・軽減を図ることを目的として、当局は演習場境界付近に土砂流出防止ダムを整備したところです。

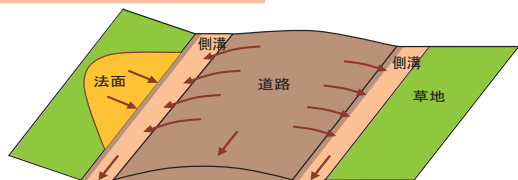
その後、同演習場内の河川流域で絶滅危惧種であるイトウの産卵ふ化が確認されたことから、流域の環境保全に配慮した土砂流出対策の検討の資とする提言を得るため、有識者で構成された検討委員会を設置しました。同委員会から、土砂流出対策として粗い砂までの流出を防止する土砂流出防止ダムに加え、細かい土がいったん河川に流出した場合、既設の土砂流出防止ダムでは流出を防止することが困難であることから、細かい土が河川に流入しないなどの土砂生産源対策も実施すべきとの提言を受け、対策を実施しております。

演習場内の主な土砂生産源の一つである道路に対する沈砂池工と側溝整備を組み合わせた対策工(現在まで14ヶ所整備)の実例を図及び写真によってご紹介します。

### 【参考：主な対策工の種類と効果】

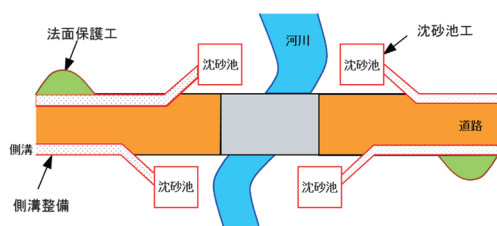
1. 沈砂池工  
河川への流入前に流出土砂のなかで比較的粒度の荒い成分を貯留。
2. 側溝整備  
側溝を碎石、芝張り等により整備し、流水による浸食を防止。沈砂池への導水。
3. 法面保護工  
法面を植生等で緑化することで、土砂生産を直接抑止。
4. 雨水分散工  
濁水を谷と離れた区域に導流・分散し、谷部への流入を防止。
5. 土留工  
谷頭の勾配を調整し、谷頭の浸食を防止。

### 土砂移動のメカニズム



- 頻繁な車両等の通行により土砂生産が顕著であり、かつ、半永久的に土砂生産が繰り返される。
- 降雨時及び融雪期には、濁水となって路面や側溝を流れるため、土砂移動が活発である。

### 側溝整備・沈砂池工のイメージ図



- 土砂の河川への流入を未然に防ぐことを目的とした対策工を整備。

対策後



北海道防衛局は、障害防止事業の実施に当たっては、自然環境の保全等に配慮しながら、今後とも防衛施設周辺に生ずる障害を防止・軽減するよう努めてまいります。

なお、本件の土砂生産源対策につきましては、北海道防衛局ホームページ「矢臼別演習場・風蓮川水系土砂流出対策等に関する最終調査報告書の公表について」にて掲載しておりますので、御覧ください。

※北海道防衛局ホームページ <http://www.mod.go.jp/rdb/hokkaido/>





# 防衛施設歴史散歩 倶知安駐屯地史料館を巡る

倶知安駐屯地史料館は、北海道でも有数な豪雪地帯である倶知安町に所在し、羊蹄山麓5町・2村（倶知安町、ニセコ町、京極町、喜茂別町、蘭越町、留寿都村、真狩村）の災害派遣隊区を担う北部方面対舟艇対戦車隊が駐屯する陸上自衛隊倶知安駐屯地内にあります。

倶知安駐屯地は、幾多の部隊新編・廃止・改編を経て今年で創立60周年を迎えました。

史料館は、昭和30年建立、昭和41年隊員クラブの移転に伴い、同年より駐屯地史料館として開館され、平成7年に第29普通科連隊の廃止及び建物の老朽化に伴い、改修工事を実施し、現在に至っています。

館内には自衛隊の各種資料と旧軍関係の貴重な資料が展示されています。自衛隊の資料は、第18普通科連隊第2大隊、第29普通科連隊、第11対戦車隊、第28普通科連隊第4中隊の創隊時資料及び師団改編に伴う廃止部隊資料の展示コーナーに区分され、主に創隊時の写真、連隊旗・中隊旗、歴代連隊長・中隊長の写真、記念盾、各種競技会における顕彰板、優勝トロフィ及び賞状等が展示されています。

旧軍関係の資料は地元有志の方々からの寄贈による村田銃、44式小銃、38式小銃、99式小銃、軍服、個人装備品及び勲章等が展示されており、毎年200人程度、来場者が訪れています。

写真提供:倶知安駐屯地



史料館全景



史料館内部



村田銃

開館時間は、平日08:15~17:00まで。土・日曜日、祝祭日については要相談。

史料館への見学申し込みは、倶知安駐屯地司令職務室広報班 0136-22-1195（内線：404）

## 防衛施設所在の首長さんからのメッセージ

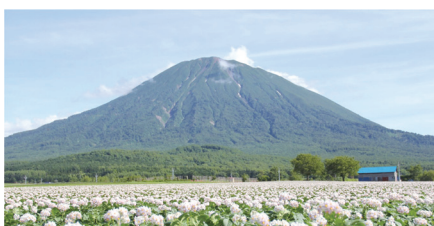


倶知安町  
西江栄二町長

倶知安町は、名峰・羊蹄山やニセコ連峰に囲まれる自然豊かな後志の中核都市です。豊かな大地で作られるじゃがいもは町の名産品であり、全国に出荷されており、

また、年間153万人もの観光客が訪れる観光地としても有名で、特に冬季は、「スキーの町」倶知安町が誇る雪質の良い“ニセコパウダー”を求めて大勢の外国人観光客が訪れる、国際マウンテンリゾート地として人気を集めています。近年は、夏季におけるロングステイの滞在先としても注目されており、また、平成42年には北海道新幹線が札幌まで延伸され、当町にも新幹線駅が建設されることもあり、今後ますます発展していく可能性を秘めている町です。

倶知安駐屯地は、今年で60周年を迎えました。平成27年6月21日（日）には、駐屯地創立60周年記念式典が執り行われ、多くの方にご臨席いただき、60周年を共にお祝いいたしました。駐屯地があることで人々の交流が生まれ、それが町の活力となっております。日々、国民の安全を守るための業務に従事している自衛隊員の皆さまは、我々町民にとっての誇りであります。今後も、町と駐屯地が互いに協力し合い、共に発展していけるよう取り組んでまいります。



羊蹄山とじゃがいもの花



冬の羊蹄山



ニセコアンヌプリ(グランヒラフスキー場)

写真提供:倶知安町



## 北部方面隊災害対処演習(ノーザン・レスキュー2015)

**概要** 北部方面隊は、平成27年度方面隊災害対処演習「ノーザン・レスキュー2015」を平成27年8月26日(水)～30日(日)の日程で実施しました。

本災害対処演習は、北海道南岸沖を震源とする大地震が発生し、同地震により津波被害が発生したという想定で実施され、北部方面隊隷下全部隊、東北方面隊の一部、中央即応集団の一部が参加し、その規模は、隊員約3,200人、車両約300両、航空機約20機、部外からは、日高、十勝、釧路及び根室の各管内計14市町と北海道警察など計43機関が参加しました。

また、在日米陸軍司令部、米海兵隊第3海兵機動展開部隊などから米軍45人、豪軍4人が参加しました。

**26、27日@札幌** 北部方面隊と北海道が共催し指揮機関訓練を実施しました。参加部隊、関係防災機関及び米豪軍が密接に連携し、方面総監部、方面隷下部隊、北海道庁、釧路総合振興局所在地において、発災後の人命救助段階を重視して、開設された各指揮所(自治体は各災害対策本部)において、情報収集活動、方面隊主力部隊の移動・展開、海空自衛隊や米豪軍を含む各部隊の救出・救助活動、更に物資輸送等の民生支援活動等を主に図上で演練しました。

自衛隊札幌病院では、27日、多数の患者を受け入れる機能拡充訓練を実施し、負傷の程度に応じて治療の優先順位を決めるトリアージが行われたほか、簡単な開腹手術ができる手術ユニットを屋外の駐車場に展開、通常200床の病床を待合室のソファなどを使って最大400床まで増やし、迅速に大量の患者を受け入れる手順を確認しました。

病院機能拡充訓練(自衛隊札幌病院)



写真提供:北部方面総監部 広報室

**28日防災セミナー@釧路** 北部方面隊と北海道の共催による防災セミナーとして基調講演及びパネルディスカッションを関係防災機関800人以上の参加者を得て行い、災害時の自治体の役割や、関係防災機関の連携の重要性について学び、防災への備えの一助とすることができました。

〈基調講演〉はじめに北海道大学の谷岡勇市郎教授が『日本海溝・千島周辺海溝型地震に関する検討状況及び防災対策』と題し、陸地での津波堆積物調査により過去の津波が浸水した距離を基に津波の高さを推定することで、ハザードマップを作成していく手順などについて講演されました。

続いて南三陸町の佐藤仁町長が『東日本大震災における教訓及び東北地方復興を踏まえた防災対策』と題し、首長のリーダーシップ、防災から減災への意識転換、防災訓練の必要性などについて実体験に基づく講演を行うとともに、障害物やゴミの撤去など本来であれば行政が対応すべきことを自衛隊が協力実施したことに謝意を述べました。

〈パネルディスカッション〉基調講演者2名の他に、志方俊之帝京大学名誉教授、折木良一富士通常任顧問、佐藤嘉大北海道危機管理監を加えた5名による『災害予防における自治体としての取り組みはどうあるべきか』『救援活動における自衛隊や関係機関との連携はどうあるべきか』のふたつのテーマについてディスカッションが行われ、自衛隊や米軍の活用、次世代のためにも防災意識の高揚や実践的な防災訓練の継続の必要性等の意見が出されました。



**29、30日@道東管内** 実動訓練では、道東沿岸部の13市町村で約2日間、自治体などと連携した即時救援、応急復旧、民生支援の各活動訓練が行われました。

**米軍との共同訓練** 日米共同訓練としては、在日米陸軍座間基地から、多用途ヘリUH-60が3機参加、日米飛行調整所が開設された内陸の帯広駐屯地・十勝飛行場を拠点に、南方約120kmのえりも町への緊急物資輸送、帯広駐屯地から南東約200kmの釧路沖に停泊する「しもきた」から釧路駐屯地へ至る傷病者輸送、帯広駐屯地から東へ約200kmの別海駐屯地を經由した別海町、中標津町との間の緊急



物資・人員輸送訓練が行われ、随伴する陸自多用途ヘリUH-1と連携した各訓練を実施しつつ、大規模災害対処における連携要領を演練し、平成27年8月30日(日)、すべての訓練を終えました。

米軍ヘリによる緊急患者空輸訓練(釧路駐屯地)



**北海道防衛局及び帯広防衛支局の参加** 指揮機関訓練では、当局職員2名が北海道庁に設置された自衛隊の方面連絡調整所に連絡要員として参加し、被害状況や米軍及び自衛隊等の動向伝達を行いました。

防災セミナーには、当局及び支局職員が参加して防災について学ぶとともに、災害時の防衛省職員としての任務を再確認しました。

実動訓練では、不測事態に対して迅速な対応をするため、当局職員8名を釧路駐屯地等へ派遣しました。本演習への参加は一部の職員でしたが、大規模震災発生時における防衛局の対応行動等についての態勢準備の一助とすることができました。



**まとめ** 北部方面隊は、このような大規模災害のような事態にも即応して任務を完遂すべく、本演習の成果を確実に取りまとめ拡充するとともに、引き続き各種訓練に励み、各自治体をはじめとする関係防災機関や、米軍・豪軍等との連携強化を通じて、各種災害への対処能力の向上を図り、「即応」「錬磨」「信頼」を合言葉に、道民540万人の安心、安全に寄与していきます。

## 少年達に野球の楽しさを知ってもらう (航空自衛隊 千歳基地野球部)

平成27年7月31日(金)、千歳基地は、基地内および市内スポーツセンター「ダイナックスアリーナ」において、少年野球教室を行いました。これは、小学生に対し、野球技量向上を支援するとともに、併せて基地見学を行い、航空自衛隊への理解を深めてもらうことを目的に行っているものです。

今年は、千歳市内の少年野球チームから男女約60名が参加し、午前中にF-15戦闘機や救難機の見学を行い、昼食は隊員食堂で、野球に関する質問などしながら、部員と一緒にカレーライスを食べました。



写真提供:第2航空団広報

午後の野球教室は、さまざまな練習方法や投球フォームについて指導を行いました。

指導にあたった部員は「今の時期は、まず野球の楽しさを知ってもらいたい。また、正しいフォームを身につけ、将来の有能な選手に育ててほしい。」と語り、少年たちの成長を期待していました。

## 地本 広場

## 陸・海・空自衛隊 総合広報

## ノーザンスピリット'2015に参加～暑い熱い自衛隊研修～ 自衛隊旭川地方協力本部(本部長 川嶋幾夫 1等陸佐)

平成27年7月29日(水)～31日(金)の日程で、東千歳駐屯地等で実施された北部方面総監部計画の陸・海・空自衛隊総合広報(ノーザンスピリット'15)に高校生50人が参加しました。

初日は、あいにくの空模様で航空機の体験搭乗が中止となり、陸上自衛隊の個人装備品・ATCE等の研修、二日目は千歳基地において航空自衛隊のF-15のスクランブル発進・政府専用機等を研修、午後には灼熱の太陽のもと陸上自衛隊の戦車試乗・各装備品等の研修、最終日は苫小牧港において海上自衛隊の護衛艦「ちくま」に乗艦し体験航海を行いました。参加した高校生たちは、陸・海・空自衛隊の訓練や装備品を見て、触れて、感じて自衛隊の印象をより強くしていたようでした。

また、現役隊員と懇談する機会もあり、仕事や生活に関することや趣味・恋愛などのプライベートな話題で会話も飛び交い、笑いの絶えない懇談となりました。

旭川地本は、担当地域広報官・本部要員の全員が「高校生のために」をモットーに、高校生に寄り添った広報を実施した結果、「将来の自衛隊生活が楽しみになった」「自衛官のやさしさを感じた」と喜びの声があがるとともに、参加した高校生の9割が自衛隊を受験したいという大きな成果を得ることができました。

旭川地本は、これからも様々な場を活用した広報を実施し、多くの志願者の獲得及び自衛隊に対する理解の向上を図っていきます。



平和を、仕事にする。

# 平成27年度 自衛官等募集



募集 種目	自衛官候補生（男子）	高等工科学校生徒	
		推 薦	一 般
募集 種目	陸上・海上・航空自衛官としての基礎的教育訓練を受けた後、「任期制自衛官」に任用され、職務を通じ技術や資格を取得します。希望により選抜試験を経て、曹や幹部へ昇進します。	高度な専門知識の取得と国際社会において自信を持って対応できる陸上自衛官を養成し、3学年卒業時には高等学校（通信制）の卒業資格を取得します。	
応募 資格	18歳以上27歳未満の者	中学校等卒業（見込含む。） 17歳未満、成績優秀で学校長が推薦できる男子	中学校等卒業（見込含む。） 17歳未満の男子
受付 期間	お近くの自衛隊地方協力本部へお問い合わせ下さい。	11月1日（日）～12月4日（金）	11月1日（日）～ 28年1月8日（金）
試験 期日	札幌：11月28日（土）、29日（日）、30日（月）、12月19日（土）、20日（日） 旭川：10月25日（日）、26日（月）、11月2日（月）、3日（火）、15日（日）、 16日（月）、12月13日（日）、14日（月） 函館：11月21日（土）、22日（日）、12月12日（土）、13日（日） 帯広：11月22日（日）、23日（月）、12月13日（日）、14日（月） ※採用予定数を採用した場合は、実施しない場合があります。	28年1月9日（土）～1月11日（月） ※いずれか1日が指定されま す。	1次：28年1月23日（土） 2次：28年2月 4日（木） ～2月 7日（日） ※2次試験は、1次試 験合格者のみいずれか 1日が指定されます。
合格 発表	試験終了後に通知されます。	28年1月20日（水）	1次：28年1月29日（金） 最終：28年2月19日（金）



札幌地方協力本部  
011(631)5472



旭川地方協力本部  
0166(51)6060



函館地方協力本部  
0138(53)6241



帯広地方協力本部  
0155(23)2485

◆募集コールセンター



自衛官募集

検索

自衛官募集携帯サイト



## 夏のスタイル変革「ゆう活」7月・8月実施

「ゆう活」とは、「夏の生活スタイル変革」の通称で、朝早くから働き始め、明るい夕方のうちに仕事を終わらせ、夕方からは家族や友人、自分のための時間を楽しむという、勤務終了時刻が早まることで生まれる夕方の時間で生活を豊かにしていくという官民挙げての取組をいいます。

### 北海道防衛局職員の声

- 日没までの時間を近隣の豊平川において釣りで楽しみ、雨天の日は毛針を作る時間に充てるなどして時間を有効活用できました。----->
- 子供の野球少年団の練習日にあわせて朝型勤務の日にさせていただいたので、少年団のお手伝いをすることができました。----->
- 日頃の運動不足を解消するため、徒歩で帰宅しようとしたところ新たな発見がありました。ある日、帰路の途中にこぢんまりとした静かな喫茶店を2軒ほど見つけました。ほっと一息、好きなコーヒーを飲みつつゆっくりと本や雑誌を読んだり、ささやかながら翌日の段取りに思いを巡らしたりなど、心身ともにリフレッシュすることができました。  
もしかしたら、今回の「ゆう活」がなければ、このような些細な発見はなかったかもしれません。これまでの仕事及び生活のリズム、そして自分自身を見つめ直す貴重な機会となりました。
- 子育て世代のゆう活は、1分でも貴重な朝の生活時間が早まり、そしてさらに仕事が定時に帰れないかもしれないとなると、子供が親と離れる時間がますます増えますし、子供に様々な無理を強いることにもなるので心配や不安を感じつつ、早くに退庁できることは当然魅力的で多くの期待も膨らみ、様々な気持ちが交差する中での取り組みでしたが、休日の通院を済ませられたり、普段できない子供の習い事等の迎えや見学等をしたり、子供の喜ぶ顔をみるすることができました。

